

第67回在宅ケアネット渋川 講演会レポート

【日時】 9月17日(水) 19:00~20:15 【会場】 プレヴェール渋川
【演題】 「認知症の「ころ」を知り、寄り添うための基礎知識」
【講師】 群馬大学医学部附属病院
精神科神経科 医師 藤原 和之 先生



職 種	計
医師、歯科医師、薬剤師	12
看護職(保健師・看護師)	41
PT/OT/ST	15
介護支援専門員	19
介護職	23
管理栄養士・栄養士	3
PSW・MSW・相談員	12
事務(行政含む)/その他	8
合計人数	133

★重要：認知症では…

辛いこと

認知症であること自体が
辛さを引き寄せ、人知れず傷つく

脳の障害が「ころ」を変化させてしまう

質問：さて、突然ですが、
想像してみてください

もし皆様が、近しい人から
身に覚えのないことで怒られたり
不機嫌な態度を取られたりしたら
どう思いますか？

認知症当事者の方は、何かおかしい言動をしてしまったのかも
しれませんが、ご本人は、それを十分に認識できていません。

POINT⑦ BPSD対応のコツ

当たり前かも知れませんが…

脳の障害によって生ずる部分は改善困難。
脳の障害は受け入れて、
心の叫びに応えるような支援を

薬が有効なケースもありますので、ご相談下さい

【講演資料より抜粋】

今回は、公認心理士の資格も持つ藤原先生による、認知症の方の心理面に着目した講演でした。認知機能の低下により認知症の方の心はどのような状態なのか、どのような心理・思考でBPSDが助長されてしまうのか、丁寧に説明してくださいました。行動の理由を考えるだけでなく、行動の基となる思考の過程を考え、心が傷つかないように対応することも大切。「認知症 いつか自分も 通る道」未来の自分をケアするつもりで、寄り添ってみてください、とのお話でした。認知症の方だけでなく、支援者である私達にとっても寄り添ってくださった講演でした。

【参加者の感想（一部抜粋）】

- ☆認知症について基礎知識からおさらいすることができて良かった。支援者として、どのように寄り添うべきなのか、当事者の気持ち・心理の例をあげていただきながら対応方法を考える事ができ、わかりやすかった。
- ☆基本的な内容でしたが、日頃からの対応の仕方についての精神・ころ・脳からの裏付けを、わかりやすく講義いただけました。

【参加者の感想（一部抜粋）】

- ☆認知症の対応に困って悩んでいる支援者を多く見てきた。この講話をぜひきいてもらいたかった。
- ☆嫉妬妄想や物盗られ妄想などに至る心理・感情が理解できました。悪循環にならないような対応を、機会がある時にタイミング良く伝えていきたいと思います。
- ☆人知れず傷ついている、ころを知ることが大切なことがよく分かりました。いつか自分も通る道・・・胸にしました。やさしい心で支援していきたいです。
- ☆日頃の業務の中で「そうそう、よくある」と思いながら聞いていました。認知症の方と接する時は、心にゆとりを持っていないと、正しい対応ができないと感じています。認知症の方の心を傷つけないように心がけたいです。お互いに笑顔になれるよう過ごしていきたいです。
- ☆相手をいかに安心で包めるかという、日々の努力が報われる内容でした。明日から又楽しく会話をしながら、ケアに当たりたいと思います。